

草津白根山の火山活動解説資料（平成 20 年 7 月）

気象庁地震火山部
火山監視・情報センター

湯釜火口北東側内壁に新たな噴気孔を確認しましたが、火山性地震の発生状況など他の観測データに特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

活動概況

・噴気など表面現象の状況（図 2～図 5）

24 日に実施した上空からの観測（群馬県の協力による）で、湯釜火口北東側内壁に局所的な高温部を新たに観測し、25～26 日に東京工業大学草津白根火山観測所と共同で現地調査を行ったところ、該当する領域に新たな噴気孔を確認しました。しかし、噴気孔は極めて小規模で、噴気量もごく少ない状況です。24 日の湯釜北側噴気地帯の上空からの観測（群馬県の協力による）では、地表面温度分布および噴気の高さは従来と変化はありませんでした。

逢ノ峰（湯釜の南約 1 km）に設置してある遠望カメラでは、湯釜火口縁を越える噴気は観測されませんでした。

・地震や微動の発生状況（図 6、図 7 - ）

山頂火口付近を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は静穏に経過しました。火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図 7 - ）

GPS 連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められませんでした。

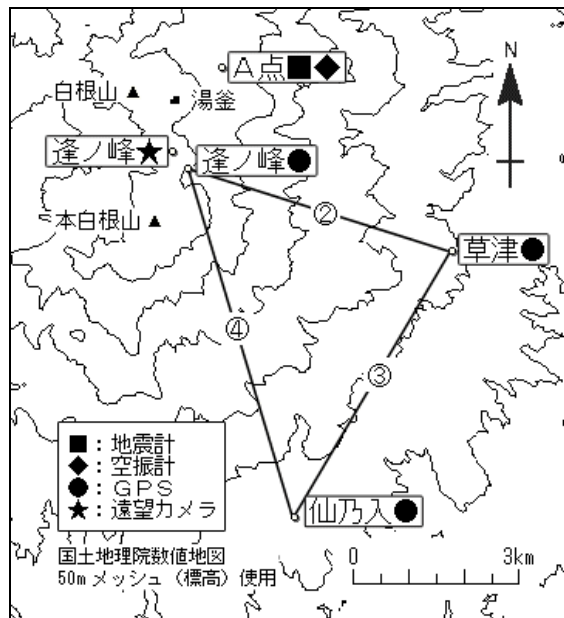


図 1 草津白根山 気象庁の観測点配置図
（小さな白丸は観測点位置を示しています）
GPS 基線 ~ は図 4 の ~ に対応しています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 20 年 8 月分）は平成 20 年 9 月 10 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、東京工業大学のデータも利用して作成しています。

資料の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

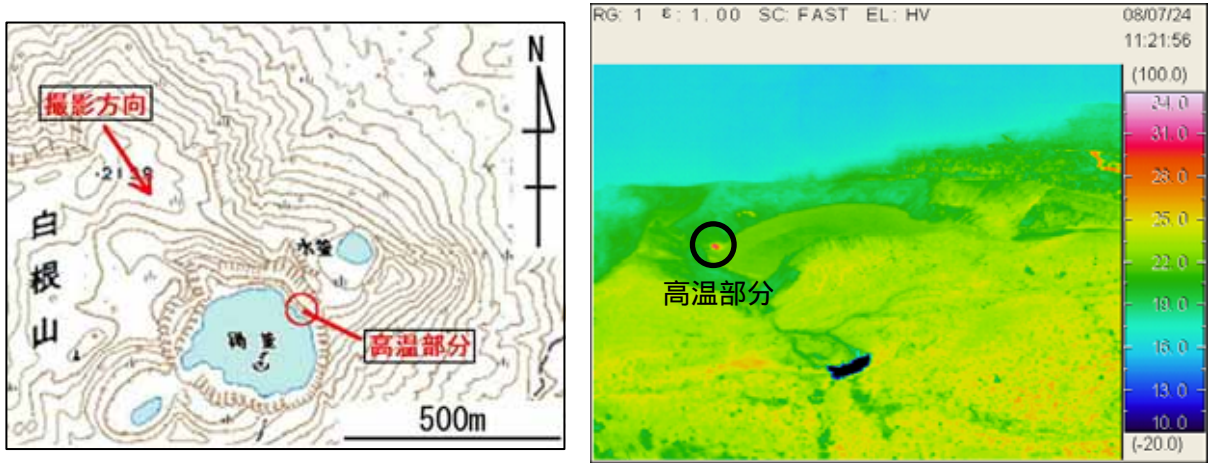


図2 湯釜火口北東側内壁の局所的な高温部分



図3 草津白根山 新噴気孔の状況(赤丸内)

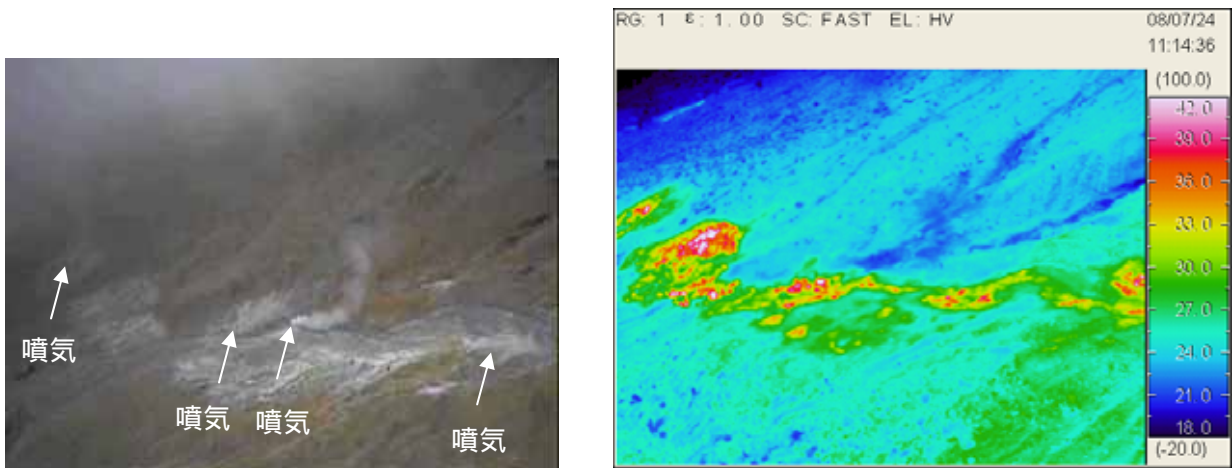


図4 湯釜北側噴気地帯の状況(西北西上空から撮影)



図5 草津白根山 湯釜付近の状況(7月30日、逢ノ峰遠望カメラによる)

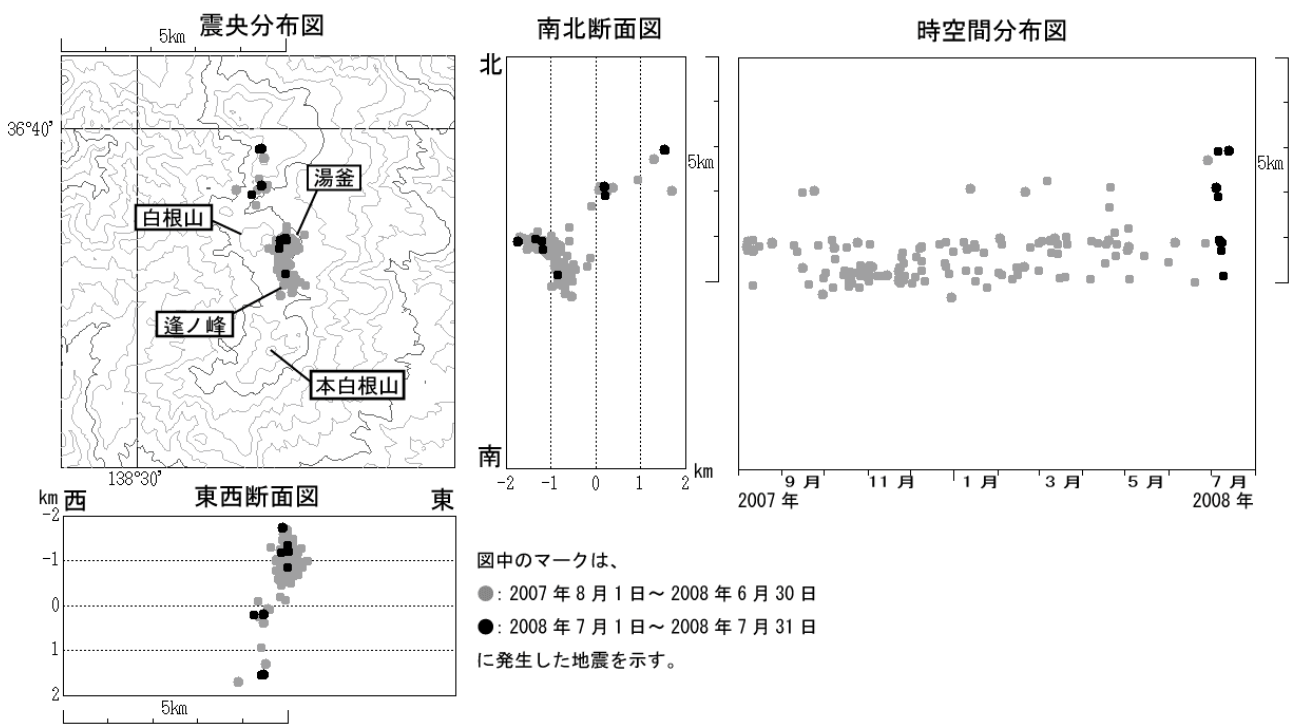


図6 草津白根山 火山性地震の震源分布(2007年8月1日～2008年7月31日)

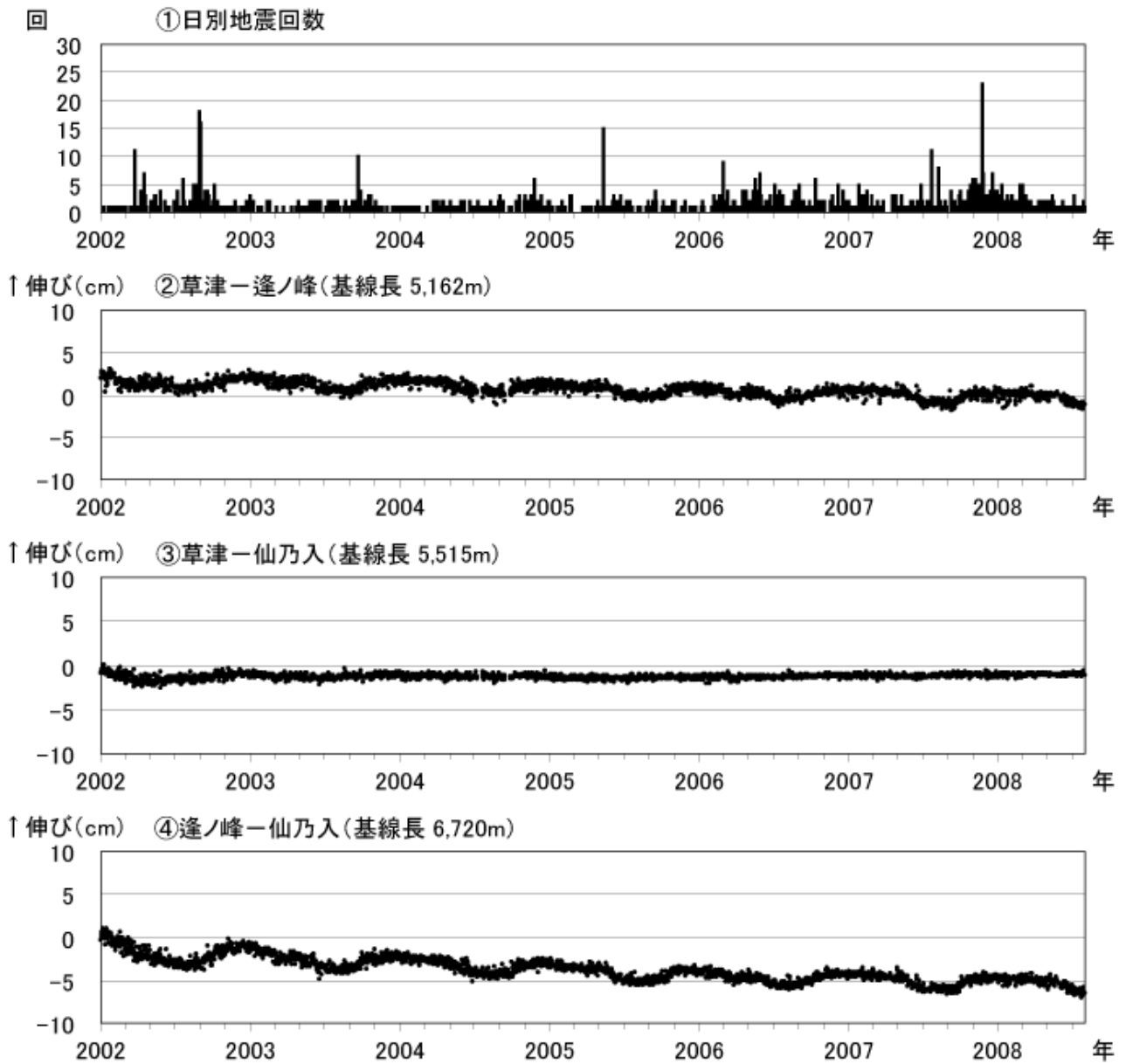


図7 草津白根山 最近の火山活動の推移(2002年1月~2008年7月)
 山体付近に発生した地震の日別回数
 ~ GPS連続観測による基線長変化
 基線長変化にみられる冬季の伸びと夏季の縮みの傾向は季節変動による変化です。
 ~ は図1のGPS基線 ~ に対応しています。